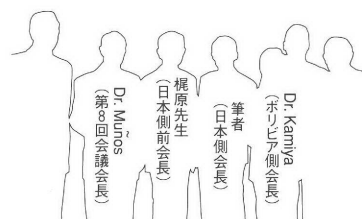


TOPIC 02

東京歯科大学 市川総合病院内科
森下 鉄夫

日本・ボリビア 医療友好協会



第8回日本・ボリビア消化器病会議
(2001年、ボリビアのスクレ市)

日本・ボリビア医療友好協会 (la Asociación Médica de Amistad Boliviano Japonesa) は、文字どおり医療・医学を通じた両国の友好・発展を目的に、1989 (平成元) 年9月21日に設立されました。日本側の会長が東邦大学医学部内科教授の阿部井徹先生、ボリビア側の会長が Dr. Enrique Quintela、名誉会長が Dr. Arnold Hofmann でした。その後、日本側会長は1993 (平成5) 年より東京女子医科大学外科教授の梶原哲郎先生がなされ、2001 (平成13) 年より私が務めさせていただいています。ボリビア側会長は、1990 (平成2) 年よりボリビアクリスチャン大学医学部内科教授の Dr. Toshiaki Kamiya です。

日本・ボリビア消化器病会議 (Jornadas Boliviano Japonesas de Gastroenterología) は、日本・ボリビア医療友好協会が主催する消化器疾患に関する国際シンポジウムです。第1回が

1982 (昭和57) 年に首都ラパスで開催され、以後コチャバンバ、スクレなどのボリビアの主要都市やカナダのバンクーバーで開かれました。今年 (2003年・平成15年) は9月25日より27日までボリビアのサンタクルスで、第9回日本・ボリビア消化器病会議が開かれます。日本・ボリビア消化器病会議には第8回までに159名の日本人医師、2,470名のボリビア人医師、287名のボリビア以外の南米人医師が参加されました。毎回、日本およびボリビアをはじめとする中南米の研究者による演題発表が、英語またはスペイン語 (通訳あり) で2日間にわたり行われます。やはり、日本の進んだ消化器X線・超音波・内視鏡による診断や治療手技など直接臨床に役立つ研究報告に注目が集まりますが、最近では病態生理や実験結果に関する演題も徐々に出されています。

9月25日より27日までの第9回日本・ボリ



ピア消化器病会議の後、9月29日より10月2日までウルグアイのモンテビデオで、第28回パンアメリカン消化器病学会（Pan-American Congress of Digestive Diseases）や第15回パンアメリカン消化器内視鏡学会（Pan-American Congress of Digestive Endoscopy）などが参加する“Gastro”2003が催されます。“Gastro”はアメリカブロックの22カ国が参加しておこなわれ、アジア太平洋DDWやヨーロッパDDWに相当する学会です。日本・ボリビア消化器病会議は隔年で行われる“Gastro”の前に開かれ、私達日本人は消化器病会議に出席し、ひきつづき“Gastro”に参加するのが通常のコースです。消化器病会議ではもちろん、“Gastro”でも日本よりの演題はほとんどが特別講演、教育講演、シンポジウムに採択されています。また、南米をはじめとして米大陸における日系人医師・研究者の活躍振りにも触れることができます。

先日、ペルー消化器病学会（Peruvian Gastroenterological Society）より、日本との合同会議の申し出がありました。将来、日本・ボリビア医療友好協会が、日本とボリビアのみならずアジアと中南米の医療・医学協力組織に発展できればと思っています。皆様の御指導とお力添えをお願い致します。

ボリビア（ボリビア共和国）

南米大陸の南北のほぼ中央、
地球上日本のほぼ反対側に位置する。

憲法上の首都はスクレ、事実上の首都はラパスで、面積は約110万平方キロメートル（日本の約3倍）、国土の1/3弱をアンデス山脈が占め、6,000m級の高峰が14峰もある。人口は約845万人（2002年）で、先住民族（ケチュア族、アイマラ族）約55%、混血32%、白人13%から成る。主要言語はスペイン語、宗教はカトリック教（95%）。平均寿命64.4歳（2002年推計）。国民総所得（GNI）80億ドル（2001年）（日本4兆6千億ドル）、一人当たり所得940ドル（2001年）（日本3万6千ドル）。

